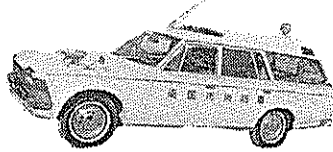


話題・トビックス

☆ 救急車を購入……ことしの4月から業務を開始しました。市消防署の救急車は、このほど約2百万円で購入され、直ちに第一線に配置、活躍しています。



市内には55号線、195号線、南國バイパスなどの国道、県市道などの道路網が、数多く走る交通の要衝とあって、県下でも2、3番にランクされる交通事故多発地帯で人命救助のためのこんごの活躍が期待されています。

☆ 市長室へよい子から花……昨年花の銀行と高知花いっぱい会から



表彰されました。なかよし子供会(久礼田)のこどもたちが、このほど市長を訪問し、自分たちで



誠こめて育てた洋ランなど二つの鉢植えの花を市長に贈りました。なかよし子供会は、民生委員の下田誠男さんのきもいりによって、結成され、毎月花づくりやいろいろの学習を活発に行なっています。



☆ 結核予防会総裁賞を受賞……市の結核予防に対する健康診断予防接種や、患者管理などの業績が、優秀であると認められ、このほど結核予防会総裁の秩父宮妃から表彰されました。



都築紡績会社の 用地造成工事を起工

一昨年、県を通じて上陸内地区へ誘致の決まりました都築紡績高知工場は、このほどようやく用地造成の起工式が行われました。同工場を誘致するため、市の事務局を上陸内に設けて、用地の取得や造成にあたらせていますが、工場予定地の確保に難行するなど一時絶望的な空気が流れ、一進一退の努力のつみ重ねを続けましたが、ようやく用地を確保することができ、用地造成の起工式に踏み切ったものです。造成工事は香長建設が行ないます。



(写真は職入れをする金堂市長)

明るく正しい選挙運動を 底辺にまで及ぼそう

腐敗のないガラス張りの政治を望むためには、なんといつてもきれいな選挙であることが一番大切なものではない選挙を行なうために、三十九年から明るい年、明るく正しい選挙運動第一線指導者講習会が、県の主催によって行なわれていて、市連管が、市連管

と市明るく正しい選挙推進委員会は、これまで同講習会で受講された七十四人の指導者を対象に、このほど中央公民館で指導者研修会をひらきました。

会は、午前と午後にわたって行なわれ、午前には、テレビ録画「魔虚の中の自治」、高知新聞社論説委員、品原淳次郎氏の「最近の大学紛争」と題した時事講演を聞き午後は、ことしの成人式に成人として祝福を受け、しかも昨年始めて選挙権行使された。外山、竹崎桃子さんが新有権者としての抱負とこれからの人生に対する信念を語り、つづいて、田村、末政須賀子さんの体験発表、県選挙管理委員会中村主監の選挙運動のほなしなどが、そのあと全体討議を行なって、明るく正しい選挙運動を全市民運動として推進する決意を新たにしました。

明るく正しい 選挙運動 第一線研修会

(写真は発表をする竹崎桃子さん)



盛りあがる市民活動へ

話題・トビックス

おとしよりのための 身体障害者 家庭奉仕員を募集

おとしよりのためまたは重度の身体障害者のある家庭で、その家族のなかに介護を行なうものがなく、日常生活を営むことのできる困窮な人たちのため、その家庭を訪問し、適切な家事、看護などの日常生活の世話や生活相談などの仕事にたづさわらる家庭奉仕員(若干名)を市福祉事務所が募集しています。

年齢は三十歳から五十歳までの婦人、自転車に乗れる方、待遇その他くわしいことは、市福祉事務所へおたずねください。

N市の有線電話は古い戸別呼びだしの施設だが、それがこの三月いっぱい自働化しようとしていた。文は高校をでてから結婚へまでの日々を、社会勉強のつもりでこの職場を選んだのだが、あれからもう三年になる。文は声には自信があった。澄んだよく透る声で、その発音には独特の抑揚があった。それは彼女の深いうらみのある瞳から受ける感じと同じだった。

文が電話を通して一人の青年と知りあったのは、昨年の秋祭りの頃だが、それはひどく低音の、それでいて重い青年の声だった。文はその声の重さに心をひかれた。

文がその青年から、電話を通して「青年団の会合へ誘われたのは年が明けてからすぐだった。場所は有線本部に隣接した体育館だったし、午後からは非番だったので早速ゆく決心がついた。何よりも声の主に逢えることの期待が大きかった。

会はずでに始まっていた。文がその眼で青年の存在を探すまで、その人だとして分かった。青年はいかにも農家の人らしく陽気な顔に、健康な微笑を泛べていた。



有線放送



4月中旬に届け出のあったひろいもののはつぎのとおりです。心あたりの方は、ご遠慮なく署で確かめてください。地名は拾った場所です。

【四月】	日	場所	品名
5日	ボスト	現金	
6日	大津村	現金(裸)	
6日	大津村	財布(現金在中)	
6日	大津村	自転車(兼用車)	
6日	大津村	自転車	
6日	大津村	財布(現金在中)	
9日	金地	現金	
9日	前浜	ダンボール入り綿	
10日	大津	カッパ(上・下)	
11日	立田	腕時計	
12日	大津	現金	
13日	大津	自転車(男)	
17日	大津	自転車	
17日	南三	現金	
17日	成台	腕時計(男)	
20日	大津	現金	
20日	片山	現金	
21日	領石	現金入り ハンドバッグ	
21日	立田	自転車(男)	
21日	立田	自転車(女)	
22日	後免	万年筆	
25日	介良	財布(現金)	

帰途は青年の車に乗せてもらった。M地区へきた時青年は車を止め、折柄たそがれの余映の中に浮きあがって見える、田園に取り囲まれた大きな建物を指さして、あれがぼくの家です。と言った。

その家は密集した人家からはすこし離れて建てられて、その前にハウスの幾棟かが建っていた。

ハウス園芸をやっているらしく、同じように白くて清潔なハウスの白さに眼を止めながら、同じように白くて清潔な青年の歯並みのことを思っていた。

青年は文を山の手の遠い家まで送ってくれた。いよいよ交換業務の終末がきた。後には公社接続のため七人だけ残ればよい。

あなたは残らなければいけないのよ。昨日も組長の小松さんに言われたが、若い彼女には周囲から大きな期待がかけられていることを文は知っていた。だが、その期待に忠実でない訳を文は面映りしてだれにも言えなかった。

あの青年の家へ永久就職の約束をしたのは、つい一週間前のことである。

十市梨夫